

\*元年度の改善プランの検証

積極的に発言し意欲的に授業に臨む児童と、社会科に対する苦手意識によりなかなか前向きに取り組めない児童との二極化傾向にある。学習問題を子供達が立て、単元をとおして学習計画を立てることにより、意欲をもって取り組む児童が増えると考えられる。また、日々の学習や社会科見学で得た事実や用語を基にして、社会的事象の特色や相互の関連、事象の意味を考えさせ、社会的思考力を養っていく必要がある。知識面においては、特に地図の読み取りに課題があるため、普段から地図帳を活用した学習を積み重ねていく。

\*2年度の改善プラン

観点	児童の実態（今回の調査における分析を含む）	明らかになった課題	具体的な授業改善案		
知識・技能	三年	・地図記号や地図に対する興味が高い児童が多い。方位や地図記号といった地図の読み取りに関する知識が定着していない。	・資料から情報を読み取る力が弱い。 ・地図上の土地の様子や、建物の位置を方位を使って表現できない児童が多い。	・絵地図などの資料に慣れ親しみ、四方位や地図記号、社会科的用語を正しく理解できるようにする。 ・四方位を使って地図上の場所を説明させるなど、方位を意識させる場を設け、知識を定着させていく。 ・日頃から、地図や地図記号に楽しく触れられるよう、ゲーム化する。	
	四年	・地図記号に対する知識の定着していない。目標値にして5～10ポイント程度下回っている。また、3学期に学習予定であった安全を守る活動に対する知識の保管が必要。	・既習事項及び学習内容の定着ができていない児童が多い。特に社会科的用語や記号などを正しく理解し、用いることが苦手な児童が多い。	・地図帳などの資料に慣れ親しみ、社会科的用語や記号を正しく理解できるようにする。 ・習った知識を使って文章で説明するなど、学習内容を毎時間振り返る場を設ける。	
	五年	・区の目標値を10ポイント上回っている。しかし、個人差が大きく、学習内容が定着していない児童もいる。	・既習事項が定着していない児童がいる。特に安全な暮らし(火事)に課題があり、火事に対応する消防署の工夫について考察することができるようにする。	・わたしたちが住んでいるまちの火事や消防署の仕組みやそこで働く人々の活動に関心をもち調べたり、学校における消防設備について考えたりすることができるようにする。	
	六年	区の目標値64.0に対して68.8であった。全体的に目標値を上回っているが、工業と国土の様子に関する知識が定着しづらい。	・工業の分野で、社会的事象についての知識が定着していない児童がいる。 ・47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋についての知識を高める必要がある。	・基礎基本となる用語については、教科書や資料集、映像などを活用しながら、繰り返し指導する。 ・47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋について理解できるように、教師が意図的、計画的に取り上げる。	
	思考・判断・表現	三年	・地図や写真に対して、興味をもっている。 ・新聞づくりでも事実は書き込めるものの、自分の考えを書くことが難しい。	・区全体を見渡して考え、町の位置や特徴、土地の様子について捉えることが難しい。 ・資料から読み取った事実の背景にあるものなど考察する力が弱い。 ・資料から読み取ったことを、言葉に表現することが難しい。	・地図や資料から読み取ったことを、表現したり、発表したりする活動を多く取り入れる。 ・わかったこと、考えたことなどを共有し合えるような話し合い機会を設ける。
		四年	・課題解決のための資料を選別したり、必要な情報を取り出したりすることが得意でない。	・どの資料を活用する必要があるのか答えられない児童がいる。資料の読み取り方自体を理解していない児童もいる。	・問題を解決するために、どの資料のどの部分を活用すればよいかを選択させる活動を増やす。 ・調べたことを、図やグラフに表す機会を増やす。
五年		・区の目標値を10ポイント上回っている。しかし、個人差が大きく、学習内容が定着していない児童もいる。	・既習事項が定着していない児童がいる。特に安全な暮らし(火事)に課題があり、火事に対応する消防署の工夫について考察することができるようにする。	・わたしたちが住んでいるまちの火事や消防署の仕組みやそこで働く人々の活動に関心をもち調べたり、学校における消防設備について考えたりすることができるようにする。	
六年		区の目標値65.8に対して73.1であり、4.3ポイント上回っている。資料から読み取った事実をもとに、自分の考えをまとめられる児童とできない児童の差が大きい。	・国土や、産業、国際社会の背景や課題を理解し、自分たちの生活を関連づけながら、解釈し推論する力をつける必要がある。	・社会事象における「目的と手段」、「原因と結果」といった関係を考えさせる活動を取り入れていく。 ・学習してきた事実を根拠に自分の考えを表現する活動の場を増やす。	
主体的に学習に取り組む態度		三年	・地図や写真、絵等の資料を読み取る活動に意欲的である。	・調べ学習など、自分で課題を見つけて学習を進めることになると、苦手意識のためか、学習を進められない児童がいる。	・地図や写真などの資料を用いて、身近な地域について関心を深められるようにする。
		四年	ごみ調べなど、進んでメモをとったり調べたりする児童により意欲態度に差が見られる。	関心・意欲・態度には個人差がみられ、進んでメモを取ったり、調べたりすることの良さに気付いていない児童がいる。	・日常生活の中や、体験学習したことから自分なりに問題意識をもたせ、意欲的に学習に参加できるようにする。 ・発問や資料提示の方法等を工夫し、進んで学習に参加したくなる授業を行うようにする。
	五年	・区の目標値を10ポイント上回っている。しかし、個人差が大きく、学習内容が定着していない児童もいる。	・安全な暮らしを守る活動の「火事」「交通事故・事件」についての資料から諸機関の体制や工夫を考察することが難しい児童が多い。	・表やグラフ等を読み取り、資料から考察して、比較・関連付けて分かった事実から自分の考えをもたせる学習活動を増やす。	
	六年	区の目標値65.8に対して73.1であり、4.3ポイント上回っている。資料から読み取った事実をもとに、自分の考えをまとめられる児童とできない児童の差が大きい。	・国土や、産業、国際社会の背景や課題を理解し、自分たちの生活を関連づけながら、解釈し推論する力をつける必要がある。	・社会事象における「目的と手段」、「原因と結果」といった関係を考えさせる活動を取り入れていく。 ・学習してきた事実を根拠に自分の考えを表現する活動の場を増やす。	